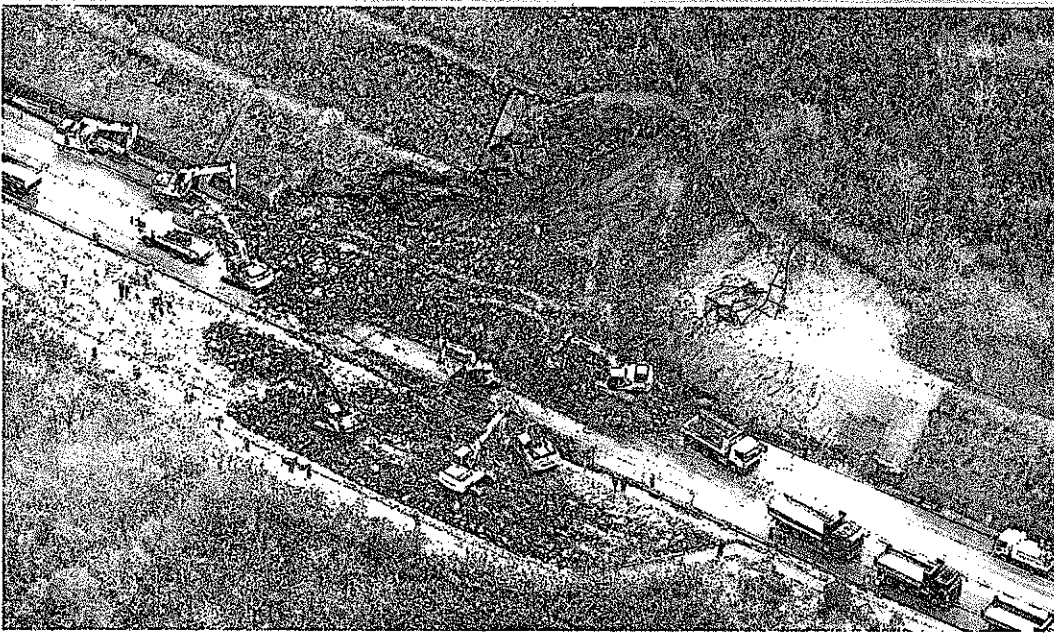


福島・宮城 震度6強

10県157人負傷 東日本大震災の余震



土砂崩れが発生した常磐自動車道の現場—14日午後、福島県相馬市（時事通信チャーター機より）

13日午後11時7分ごろ、福島県沖を震源とする地震があり、同県相馬市や宮城県蔵王町などで震度6強の揺れを観測しました。気象庁によると、震源の深さは56キロ。地震の規模（マグニチュードM）は7.3と推定されます。総務省消防庁が15日まとめたところ、負傷者が福島県で88人、宮城県で52人など、東北、関東の10県で157人に上りました。11人が重傷、146人が軽傷でした。日本共産党は14日、小池晃書記局長を本部長、高橋千鶴子衆院議員を事務局長とする福島県沖地震災害対策本部を設け、同日、高橋氏、岩淵友宏院議長の福島県入りしました。

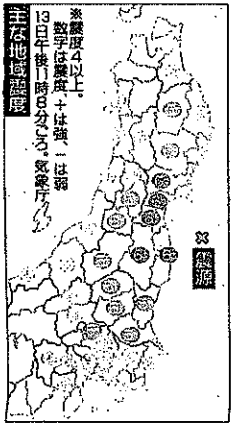
↓関連の2面

福島や宮城などの被災地「揺れの強かった地域は、では大雨が予想され、土砂、今後1週間、最大震度6強災害への警戒が高まって、程度の地震に注意してほしい」と呼び掛けました。

する被害が相次いだ相馬市 東京電力によると、福島では雨に備え、市がブルーシートなどを無料で配布しました。

燃料プールから水があふれました。

地震は2011年3月に起きた東日本大震災の余震と考えられます。鎌倉紀子地産情報企画官は記者会見で、一部で復旧作業が完了



16日から一週一週間出たため復旧作業を進めて、16日から一週一週間おき、全線再開は24日ごろ開を決めました。東京一那の見込み。

須塩原間で約1時間以上本復旧作業は、発生した土砂崩れの影響で、臨時列車を運行し、16日以降も当面継続します。相馬インターチェンジ、新地町

（IC）新地IC間の通 震度6弱II宮城県石巻が折れるなど設備に被害が 行止めは15日も続きまし、市、福島市、福島県郡山市

被害の温泉街「支援ぜひ」

福島二本松 高橋・岩淵議員ら調査

福島県沖を震源とする強い揺れが観測され、県庁でも被災地に足踏られた福島県 二松市の温泉街で、旅館内部の柱や天井が崩れるなど被害が広がっています。

「13日は泊まり客が60人、共産党の高橋千鶴子衆院議員、岩淵友宏院議員、神山

部分が開けて防火壁が倒れていました。すべての階で天井の一部破損や客室被害が見られます。

「13日は泊まり客が60人、共産党の高橋千鶴子衆院議員、岩淵友宏院議員、神山

高橋議員、岩淵議員、神山、宮本しづえ、大橋沙織各議員、町田和史県議、棟と棟をつなぐシヨント

2/16 再産



旅館の女将（左端）が被害状況を聞く（左）高橋、大橋、神山、町田の各議員、14日、福島県二本松市

型コナで売り上げが低調なので、持続化給付金を可能な限りの努力をしているが、ぜひ支援を頼みたい」と訴えました。

別の旅館では、1年前に御影石に据り直したフロントの床が壊れ、高橋が一枚ガラスも破損。玄関先や駐車場にも亀裂が走り、ブルーシートが掛けられていました。作業着姿で対応した女将は「5階まで全部被害が出ている。大きな地震が続くのではないかと心配です」と不安を語りました。

高橋議員は「15日は大雨になる予報なので地震の規模による被害も心配です。国会や県政で対策を届け、支援を強めたい」と話しました。

強い揺れ・津波 今後とも警戒

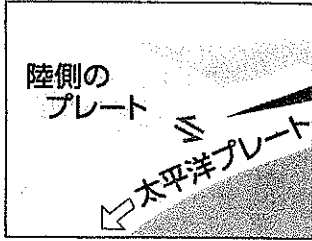
13日深夜に発生したマグニチュード(M)7.3(暫定値)、最大震度6強の福島県沖の地震。東日本大震災を引き起こした2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震(M9.0)から10年がたっても、大地震への警戒が必要なることを改めて浮き彫りにしました。

「今後も長期間、余震域や内陸を含むその周辺で規模の大きな地震が発生し、強い揺れや高い津波に見舞われる可能性がある」。政府の地震調査研究推進本部は14日、臨時の地震調査委員会(委員長・平田直防災科学技術研究所参与)を開き、注意を呼びかけました。

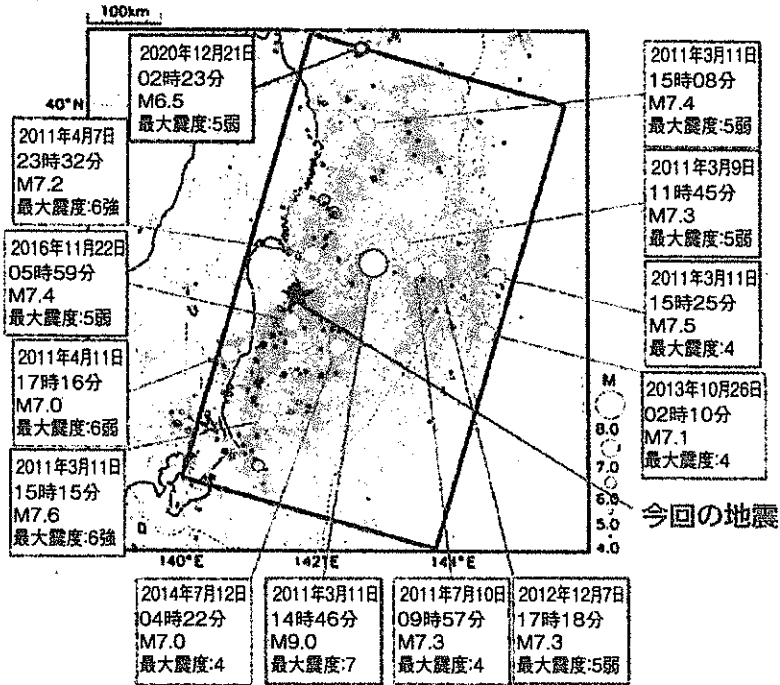
気象庁によると、10年前の東北地方太平洋沖地震の余震回数(M4以上)は、直後の1年間は5000回以上だったが、9年目は175回に減少。ただ本震前の年平均(1388回)より多い状況です。

平田委員長は会合後の記者会見で「地震は1度起こると群れをなし、空間的時間的に集中して次々に起こる」と指摘。余震の発生回数の減り方は、直後は大きいものの、次の10年は数年単位では変わらない状況が続くと強調しました。

調査委員は、04年のスマトラ島北部西方沖の



今回の地震 概念図



2011年東北地方太平洋沖地震の余震域で発生した主な地震。緑枠はM9.0の本震、赤枠は直近の大きな地震(気象庁の発表資料をもとに作成)

建物被害招く震動は小さく

地震(M9.1)の震源域と周辺で約7年半後にM8.6、約11年後にM7.8の地震が後にはM7.8の地震が発生した事例も紹介しています。

ただではありません。東北地方の太平洋沖では太平洋プレート(岩板)が陸側のプレート(岩板)の下に沈み込み、ひずみが蓄積しています。この領域は地震活動が活発で、青森県東方沖から茨城県沖にかけてM7.9級の地震が高い確率で発生すると評価されています。

今回、宮城県の石巻に生かしていく必要があります。

動が観測されました。平田委員長は「もう少し沖合の浅いところでM8の地震が起きれば高い津波が発生する可能性がある」と注意を喚起しました。

今回の地震の揺れ方の特徴も分かってきました。東北大学災害科学国際研究所の大野晋准教授は、震度6弱以上の各地の地震の揺れを解析。その結果、内陸で起きた16年の熊本地震や1995年の兵庫県南部地震(いずれもM7.3)の大被害地と比較して、建物の被害につながる周期1秒強の揺れは小さい一方、外装材や屋根、設備機器、ブロック塀の被害に注意すべき短周期(0.5秒以下)の揺れは同等レベルの地点がありました。

将来の地震への備え